

岐陽中学校

第2学年便り

No. 10



「和を以て貴しと為す」



平成30年6月15日

道徳の授業より

今回の道徳の授業では家族愛について学習しました。

『資料について』

M子の母の顔には大きなやけどの跡がある。母親はそのやけどの跡について、M子には本当のことを伝えていなかった。M子は母を友達に見られることを嫌い、母を遠ざけてしまう。しかし、父親から母のやけどの跡の真相を聞き愕然とする。そして母の深い愛に気づき、やけどした母の顔を何よりも「美しい」と思うようになる。

【生徒の感想】

○なかなか親に「いつもありがとう」という言葉が言いづらいです。でも、この話を読んで少し言える気がします。この話は、自分自身も考えさせられる話だと思います。何か一つ言葉にしてみたいです。

○親が子どもを守るために日々いかに努力してくれているかがよくわかった。親は口うるさく言っていると思っても、子どものためだからこそ、そういう言い方になるだけで、親が一番自分のことを思っていると改めて思った。

○今までずっと家族と一緒に過ごしてきたけれど、やっぱり意見が食い違って対立することもあった。けれども家族、特に両親はいつも自分を思ってくれてるのだなと感じた。日頃から家族に感謝したいと思う。

○今自分が普通の生活を送れているのも、家族のおかげなのだ改めて確認できた。この普通の生活を送れていることに感謝しながら、家族の大切さをかみしめていきたいと思った。

○親を思う気持ちに対して改めて考えてみようと感じた。自分に対して親はいろんなことをしてくれているのに、「ありがとう」も言っていなかったので、これからは考えていきたいと感じた。

○この話の母は、M子のことを自分のことよりも大切にされていて、だから自分がやけどしてまでM子を助けようとしたから、とてもM子を愛している人なんだなと思った。うちのお母さんは、私を愛してるかなあ？

○私は家族のことは好きだけど、いつもケンカすることが多いので、この話を読んでもっともっと家族と楽しい思い出を作っていきたいなと思いました。

○私の母もいつも美しい顔をしている。私たち子どものために、自分の時間をさいてでも、働いているその顔も、病気になったとき私たちを見る愛であふれる顔も、どんなときでも私たちのことを考える母の顔は、どんな顔をしていても美しいと思う。表情は、言葉では表せない程の伝える力がある。表情が伝えてくれる母の思いを私はこれからも受け取っていきたい。

親思う心にまさる親心